



## 説教要旨「新しい王はどこですか」

イザヤ書60章1～6節

マタイによる福音書2章1～12節

マタイによる福音書の方の降誕物語で、東の方から…恐らくはペルシアのあたりから占星術の学者たちがエルサレムにやってきて、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか？」と尋ねました。これを聞いて、当時ユダヤ地方を治めていたヘロデ大王は不安を抱きました。

ヘロデという人は非常に恐ろしい王として知られていました。政敵を疑心暗鬼に陥ると自分の妻や息子でも遠慮なく処刑したりして、自分を脅かす人間は1人残らず消すという徹底ぶりでした。不安を抱いたヘロデは、「わたしも行って拝もう」(2:8)と、学者たちに嘘を吐いて、“新しい王”を殺そうと企みました。そしてその企みが頓挫すると、ベツレヘム周辺の2歳以下の男の子を一人残らず殺させた(マタイ2:16)、という残虐な物語が描かれています。

一方でヘロデ大王は、政治家としては有能でした。ローマ皇帝に取り入って、“ユダヤの王”と認められ、エルサレムの神殿の大改築を行ったことでユダヤ教の指導者たちの指示を得たり、港湾都市カイサリアの建設も行いました。マタイによる福音書が描くクリスマスの物語は、この大胆で有能けれども、残虐さで恐れられていたヘロデ大王に対して、退いて“新しい王”に王座を譲るようにと促すのです。権力に取りつかれて、人を人とも思わない王、保身のために平気で嘘を吐き人を欺くような権力者は必要ないとのメッセージが聞こえてくるようです。

私たちに必要なのは、強大な力で弱者を虐げ、身内ばかりに恩恵を与えるような王ではありません。イエス様のように、貧しい人、病んでいる人、虐められている人、そんな弱い人間のそばに寄り添って、病を癒したり、食卓を囲んで一緒に笑ったり泣いたりする。そうやって闇の中に小さな灯火を灯してゆくような、小さな変革を起こす人です。そのような一見地味ではあったも、一人一人の人間に寄り添ってくださる王。そのような本当の“王”が私たちのところに来てくださったのです。主が共にいてくださる。この喜びをもって新しい年を迎えましょう。

(2020・12・27 説教者：稲垣真実)